

第61回中学生海の絵画コンクール

審査員 綿引 昭子 (新世紀美術協会 会員)
松浦 孝 (門司港美術工芸研究所 所長)

講 評

梅雨入りが遅れているせいで、今年の海の絵画コンクールの審査の日の七月二日は、朝から、猛烈な土砂降りの雨に迎えられました。会場には、すでに、作品が並べられている最中でした。今年は、昨年よりも作品が多く寄せられているとのことで、期待もふくらみます。胸をわくわくさせながら、早速、松浦先生と、一通り見せていただき、そして、審査に入りました。寸暇を惜しんで、作品を仕上げられた皆さんの頑張りが、すべての作品に見事に表れていると感じました。

勿論、技法も大事ですが、最も大切なことは、美に対する純な気持ちと絵を描こうという情熱なのです。審査は、最後まで、もつれましたが、金賞には、上野結布花さんの作品「船着き場の風景」に決定しました。結布花さんの作品には、作者の幸福感、充実感があふれており、私は心から感動致しました。入選作品には金賞一名、銀賞三名、銅賞六名、佳作三十名、そして、優秀校には鹿児島市立東谷山中学校とさせていただきました。受賞された皆様、おめでとうございます。

絵を描くということの楽しさ、厳しさは、「ものをよく見る」ということにつながります。これからも自分の絵を楽しみながら描いていきましょう。

来年も、皆さんの作品に会えることを楽しみにしています。ありがとうございました。

令和六年七月十五日

審査員 綿引 昭子 (新世紀美術協会 会員)